

蒜山バイブルキャンプ (岡山県真庭市蒜山)

(2015年8月1日～5日)

小林克美兄(琴浦家の教会)

鳥取県米子喜太郎空港に10時50分着、米子道を通り、蒜山インターで降りて10分、蒜山バイブルキャンプ場の近くの、塩釜冷泉に湧き水を飲みにより、手をつけていられないほどの冷たくおいしい水をペットボトルに入れて持ち帰る。バイブルキャンプ場についてのは、12時過ぎ。中華どんぶりをいただき、楽しみの一つである、かご作りをした後、近くの象山登山。片道30分くらいの小さな山だったが、2歳から68歳まで、汗だくになりながら挑戦しました。

シャワーを浴びてから、夕食をいただき、夜の集会。

車座になり、詩篇62編1節からペアを組んで、自分の中で感謝していることを思い出し、神様が背後におられ、助けていただいたことをお互いに話しあう。その後、お互いの話にコメントをした後、それぞれが発表をし、感じたことを皆で証し合い、そのことに関して高橋先生がコメントをされました。

その後は、皆で薄茶をいただき、交わりのときを持ち、最終11時ごろに各部屋へ。

2日(日)の礼拝は、聖餐式をとおして、神様の命をかけた愛のメッセージがあり、聖餐式の中では、ぶどう酒とパン。そして、濃茶とまんじゅうを頂きながら、高橋先生も初めてという、和洋両方の聖餐式をされました。大人15名、初めての方も、聖餐式にあずかり、その意味を先生から教えていただきました。

午前は、残りのかご作りの仕上げと、子供たちは、森のクラフト作り。様々な材料をボードに貼り付け、オリジナルの壁飾りが出来ました。

高橋先生は、キャンプ場の大橋牧師と、ナウエン師を講師にしたセミナーの思い出話。おおいに収穫があったとのことでした。

最後の2時半からの会は、土曜日に示された詩篇62編1節の中にある、神様のおもてなしについて、話がありました。

今回のキャンプは、このキャンプを楽しみにしていた中国からの方(韓国人)、また、月末にはフィリピンに行かれる方もありで、しばらく会えない

ということもあって、感慨深いキャンプとなりました。(礼拝にはオーストリアから帰って来ておられる方も出席されています。インターナショナルですよ)

肩の力を抜いて、生活の中で生きた信仰を持つことについて、教えられ、感謝な二日間でした。参加者22名。



札幌福音自由教会

(2015年9月17日～23日)

札幌福音自由教会 鍛冶 勉牧師

高橋敏夫先生、北海道まで来てくださりありがとうございました。

地元で根差し福音を伝えていくことに色々と示唆を与えてくださり感謝します。外国から来た福音を宣教師の文化のスタイルそのまま伝えていくときに歪みが出てくるのが分かりました。福音そのものは聖書の言葉ですから変わってはならないのですが、福音を聞く人たちは文化が違います。日本の文化にあった方法で、福音を伝え、時かれた福音の種をその地にあった方法で育てて行くことにもっと心を注いで行く必要があること教えていただきました。

日本人は関係を大切にします。その関係を作り上げていくのは「もてなしの心」「仕えていく心」であることを教えてくださり感謝します。まさしく主イエス・キリスト様の歩みであります。主がどれほど私に仕え、もてなしてくださったかを日々深く黙想し、他の人を心からもてなし、心から仕えていく者でありたいと深く思われました。

四国伝道

伊達みつ子姉(高松シオン教会)

秋の一日修養会 11月15日(日)
「初めの愛」(使徒の働き1:8,2:40～47)

礼拝 「キリストの教会」～神の愛の器～
午後の集まり

「聖霊に満たされている教会」
～キリスト者生活の点検～

高橋敏夫先生をお招きして上記のように一日修養会として礼拝および集会を持つことができましたこと心から感謝し、主の御名を崇めます。

高橋先生は、ちょうど2年前に来てくださっていて、今回高松シオン教会にお迎えするのはもう2度目でしたので、兄弟姉妹たちも慣れ親しい雰囲気の中で集会を持つことができました。

高松シオン教会にとって、13年間ご奉仕くださった加藤光行主任牧師が9月末で退職されて1か月余りたったところであり、ちょうど無牧の時にふさわしいメッセージをいただき励まされたことでした。教会の兄弟姉妹たちもそれぞれに色々な気づきを与えていただいたことと思います。曲がった愛の冷めた今のこの時代の中で、キリスト者といえども、とかくあわただしくなりがちですが、神様に会わせていただいた時の初めの愛の感動を忘れず、今一度心静めて、悔い改めつつ、ゆったりとイエス様の歩みにしたがって生きるものでありたいと思われたことでした！

集会の終わりには、希望者にはお抹茶と和菓子も用意して、交わりの時を持ちました！

この日、礼拝の中で、高橋先生に子ども祝福式をお願いしましたところ、快く受けくださり本当に感謝でした。高橋先生が一人ひとり、子どもたちのために丁寧に祝福のお祈りをしてくださり大きな喜びでした。子どもたち、ちょっと緊張しながらお祈りしていただいた体験はきっと心の中に貴重な体験として残ることでしょう。



日本文化宣教協力会 四国セミナー
11月16日(月)

「戦後70年、四国の宣教を省み今後を考える」

ちょうど高松シオン教会無牧の時でありましたが、加藤先生が9月の末に声をかけてくださっていて、二川雅光先生(フェローシップ・ディーコンリー福音教団高松キリスト教会牧師)が司会を受けてくださり、高松シオン教会を会場にしてセミナーが開かれました。無牧の時であり、牧師先生たちの集まりと言われても……と私としては、心配してしまいましたが、参加して下さる先生方もあり、高松シオン教会の婦人の方たちの参加と大きな助けもあって、無事終えることができホッとしたことでした。集会の終わりごろにはお弁当をいただきながら、またお抹茶もいただいて、参加された方々がそれぞれ貴重な気づきを与えられた集会でした。ある婦人たちは高橋先生のことばにとっても励まされました！と言っておられました。



終わりに

前回高橋先生が来られた時訪問した観音寺聖書教会の宮原先生を再訪問できたことは感謝でした。高橋先生にお会いし、励まされたことと思います。

また、高橋先生の研究にどれだけ役立ったかはわかりませんが、でも前回行くことができなかった小豆島に今回は行くことができ、本当によかったなと思っております。小豆島におけるキリシタンの遺跡巡り、私たちも一緒にさせていただき、先人たちの信仰を心に留めさせていただきました。

今回の集会のために、春日部の方々の祈りも多々あったこと覚えております。

心から感謝いたします。